

緑園連合 News

2025年10月15日 vol.61

発行 緑園連合自治会
発行責任者 貝沼 貞夫
編集責任者 林 英一

◇◇ 敬老の日特集 ◇◇

「人生 100 年時代 緑園を健康長寿のまちに！」

今年も敬老の日（9月15日（月））を迎え、高齢者のこれまでの社会への貢献に感謝し、健康長寿をお祈りするさまざまな催しが各地で行われたようです。当緑園連合では、今年度も敬老祝賀会は行わず、75歳以上の皆さんにお祝いの記念品をお届けさせていただきました。

<日本人の平均寿命について>

厚生労働省が本年7月25日に発表した2024年の日本人の平均寿命関連のニュースが各機関から報道されています。それらによれば、男性が81.09歳、女性が87.13歳で、前年と比較して、男性は横ばい、女性は0.01歳下回っています。国際比較では女性は世界1位で、男性も上位に位置しているなど依然として世界の中で長寿国となっています。

しかし、普通の日常生活に何らかの原因で支障をきたし、不自由な生活を余儀なくされている平均期間は、女性の場合約12年間、男性の場合約9年間とされています。この「不自由な生活期間」をいかに短くし、「健康寿命」を伸ばすかが、大きな課題と捉えられます。健康で長生きできれば、ご本人はもとより、ご家族はじめ周りの方々も含め幸せなことと思われます。

日本人の健康寿命			
	平均寿命	健康寿命	不自由期間
男性	81.41	72.68	8.73
女性	87.45	75.38	12.06

(2019年データ)

<健康寿命を延ばすためには？>

このテーマは、高齢者のみならず、現役の若い方々にも共通の課題として、取り組む必要がありそうです。適度な運動、食事の改善、健康診断による疾病の早期発見・早期治療のほか、地域活動への参加による多くの方々との交流も、健康長寿に良い影響をもたらすと言われています。

緑園地区保健活動推進員（代表山田喜巳江氏）は、活動の基本目標として「健康寿命の延伸」を掲げ、積極的に展開しています。（関連記事 B1 面参照）

◇◇ 令和7年度緑園地区敬老祝賀行事報告 ◇◇

9月13日（土）に、各自治会役員、班長諸氏の協力をいただき、75歳以上の方々に記念品をお届け致しました。各自治会に、75歳以上の応募者リストを作成していただいた結果、合計853名の方々から応募がありました。また、77歳、88歳、99歳、100歳の方々には、お祝いの商品券をお届け致しました。

記念品贈呈対象者

歳	人数	商品券 (円)
77歳	78	1,000
88歳	20	2,000
99歳	3	3,000
100歳	2	5,000
計	103	



75歳以上のお祝い品

自治会別応募者数

自治会	75歳以上 応募者数
丁目	
1	97
2	198
3	191
4西	218
4東	—
5	94
6	—
7	55
計	853

◇◇ 緑園連合夏祭りが開催されました ◇◇

8月23日（土）、緑園連合自治会主催夏祭り大会が緑園学園グラウンドをお借りして開催されました。今年度は、例年8月上旬に開催のところ、夏の暑い盛りを避け、この日にずらして計画しましたが、猛暑はおさます厳しい暑さの中での開催となりました。そんな中、各自治会ともに多くの皆さんが参加され、出店準備に取り掛かりました。

学園の正門にはきれいに飾られたアーチが設けられ、今大会の大きな目玉である緑園学園4・5年生によるこどもソーランのための舞台が、会場中央に設営されました。



アーチ

中央舞台

16:40 緑園学園キッズクラブによる威勢の良いこども太鼓で幕が開き、松井大会実行委員長により開会が宣言されました。

17:05 緑園学園野口校長先生よりご挨拶をいただき、緑園学園4年生・5年生によりこどもソーランが演じられました。

17:30 大会会長の貝沼連合自治会会長よりあいさつがあり、続いて来賓が紹介され、山口泉区長にご挨拶いただきました。



こども太鼓の演奏



挨拶される野口校長先生



こどもソーラン



挨拶される山口泉区長

今大会では、各自治会や各種団体等、20張のテントが設営、出店され、開会セレモニーとともにお客様の受け入れ・応対が始まりました。（写真：各自治会や団体による出店販売の様子）



17:50 緑園学園吹奏楽部による演奏がありました。お揃いのウェアに身を包んだ生徒たちによるすばらしい演奏に、集まった多くの皆さんから盛大な拍手が送られていました。

18:25 緑園学園ダンス部による演技が披露されました。よく揃った軽妙な動きが印象的でした。

18:50 盆踊りが行われました。緑園学園音頭も披露され、生徒と大人が大きな輪をつくり、楽しそうに踊りました。夕闇が迫ると、会場を囲む各店舗に明かりが灯り、お祭りのムードが高まり、お客さんの数も増え、一段とにぎやかになりました。

20:25 楽しかったお祭りも、あっという間に終了時刻を迎え、加藤緑園連合副会長により閉会の挨拶があり、幕を閉じました。

今年の夏祭りは、各自治会の皆さんの協力もあり、多くのお客さんが来場され大いに盛り上がりました。校庭・各種設備をお借りした緑園学園さんにお礼申し上げます。計画、準備、後片づけに当たられた実行委員の皆さん、ご苦労様でした。



緑園学園吹奏楽部

◇◇ 令和 7 年度各部の取り組み紹介 ◇◇

◇◇ 防犯部 ◇◇

部長 桑原 由行

こんにちは。緑園連合自治会防犯部の桑原です。日頃、住民の皆様には、防犯活動にご協力頂き有難うございます。今回、連合ニュースの紙面をお借りして、私共の活動内容と最近の治安情勢とを併せて紹介させて頂きたいと思います。

まず、緑園地域の一月から八月までの犯罪認知件数は、三八件と昨年に比べ十八件の大幅増加でした。泉区内でも二十二地域中、件数では四番目、増加数では二番目に悪い地域です。空巣、二輪車盗等窃盗犯が三十八件中二十九件と主ですが、以前のように「安心安全な街」というイメージはなくなりつつあるといえそうです。

このような状況下で、連合防犯部会は、各自治会防犯担当者と防犯パトロール協議会代表の九名で、定例会、メール等を通じ、各自治会防犯活動のサポート及び合同の活動による地域の防犯体制強化と防犯意識の向上に努めております。主なものは、①行政、警察からの防犯情報の共有。②各自治会の活動状況の共有と意見交換。③年末の相鉄ローゼン周辺での防犯キャンペーン活動。（駅前交番、区役所にもご協力頂いております。） さらに今年は、横浜市の「地域の防犯力向上緊急補助金」の活用についても情報交換、一部取り纏めを行っております。

以上、活動の簡単な紹介ですが、地域の防犯力向上には、地域住民の皆様のご協力が不可欠です。何卒、今後とも防犯活動へのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

◇◇ 緑園地区保健活動推進員 ◇◇

代表 山田喜巳江

自治会・町内会などの地域組織と連携し、住民の皆さんの健康づくりを支援する役割を担っています。『健康寿命の延伸』を基本目標に『生活習慣の改善』『生活習慣病の発症予防や重症化予防』『健康に望ましい行動を取り易くする環境づくり』そして安心して子育て出来る街を目指して毎月第 4 木曜日 赤ちゃん教室の実施、10 月 26 日緑園ふれあい祭りで血管年齢・骨健康度・血圧・握力・体組成・身長などを測る健康チェックコーナーを設け幅広い世代の方に健康への関心を高める良い機会にして頂けます様に多くの方のご参加をお待ちしております。11/3 区民ふれあい祭りにも足を運んで頂けたら嬉しいです。そして私達は、フレイル予防の為に研修、応急処置講習会、ベジチェック etc 健康づくりに関する正しい知識を学び来年度からの泉わくわくプランに向けて更に頑張ってます。

地域の皆さま一人ひとりの健康になろうと思う心を育てられる自らが健康でありたいと、思える方を増やせる楽しいイベントを企画して行きますので皆さまのご協力を宜しくお願い致します。

◇◇ 緑園地区環境事業推進委員 ◇◇

代表 渡辺 淳

緑園地区環境事業推進委員は緑園地区の 8 自治会から推薦をいただき、横浜市長から委嘱を受けて活動しています。現在 14 名の委員が、緑園地区における資源循環の取組み（ごみ減量化・資源化）や街の美化、脱炭素の推進等を中心に活動しています。

今期は、8 月開催の緑園連合夏祭りに 3 日間に亘って、ごみの減量化・分別排出を進める活動を行いました。夏祭り当日はごみ出しマナーの啓発として、ごみステーションでの声掛け、模擬店へのチラシ配布・分別指導を実施しました。翌日はごみ集積場所にてごみの再分別を行い、翌々日はごみ搬出（ごみ収集車 3 往復）に立ち会いました。参加者の皆様には、ごみ分別にご協力いただきありがとうございました。

今後は、緑園地区福祉ふれあい祭りでの魚釣りゲームを通じた 3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動の呼びかけ（10 月）、泉区民ふれあいまつりでのごみ分別指導（11 月）、緑園地区年末一斉清掃による緑園都市駅周辺のクリーンアップ（12 月）、資源リサイクル関連施設の見学による分別意識の向上（2 月）を予定しています。

私どもの活動に対し、ご理解ご協力のほどよろしくお願い致します。

◇◇ 国勢調査への協力について（お礼） ◇◇

緑園連合自治会会長 貝沼貞夫

本年は、5 年に一度の国勢調査の年です。国勢調査は、国の最も重要かつ基本的な統計調査で、国内の人口・世帯の実態、就業状態などを明らかにするため、5 年ごとに実施されております。

大正 9 年（1920 年）以来ほぼ 5 年ごとに実施され、今回の令和 7 年国勢調査は、第 22 回目にあたります。

国勢調査では、関係法律によって厳格な個人情報保護が定められています。

調査は、各自治会で推薦された方々（調査員）が行い、調査員には法律により守秘義務が課されております。したがって、調査員から個人情報が漏れることはありませんのでご安心ください。また、回答いただいた内容は、統計の作成に関連する目的以外に使用することはありません。

調査票は、外部の目に触れないように厳重に管理し、集計が完了した後、国において完全に溶かします。

会員の皆様、そして調査員の方々におかれましては、このたびの令和 7 年国勢調査におきましては、ご多忙の中、調査へのご協力、ご尽力をいただきありがとうございました。

皆様からいただいた貴重な情報は、国や地方自治体の施策の基礎資料として、今後のまちづくりや行政サービスの向上に活用されることとなっております。

例えば、① 国や地方自治体が行う政策立案・予算配分の根拠、② 学校・保育所・高齢者施設の整備計画、③ 医療・福祉サービスの提供エリアの検討、④ 地域の少子高齢化や人口減少の対策、⑤ 災害対策（避難所・支援物資の配置など）、⑥ 公共交通の路線見直し、などに活用され、単に集計して終わりではなく、私たちの生活に深く関わる様々な場面で重要な基礎資料として活用されます。

この調査が、我々の日常生活にとって有意義な調査であることを理解いただき、ご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

◇◇ 今年の夏を振り返り来年に向けて ◇◇

編集委員 長谷川幹夫

今年の夏が終わってみると、昨年までと比べても異常に暑い夏だったように感じます。従来、夏期と言えば 6、7、8 月を指していますが、今年の場合は、5、6、7、8、9 月が夏だったように感じます。昼間の異常高温が予報されると、日中の外出の危険情報・外出制限が発せられ、学校、幼稚園、保育園では、屋外での活動が制限され、学習計画に大きな影響が及んでいることと思います。

また、住民である私たちも、昼間の外出制限が発せられるような猛暑の日には、用事が出来ても、昼間の外出がままならず、屋内で過ごす日が多かったように思います。特に高齢者にとっては、体調を崩したときなど、いかにして猛暑の夏を乗り切るかが大きな課題のように思います。猛暑に苦しむのは、人間だけではなくカラスも同じのようです。二丁目と新橋堂山の境界を通る道路上の電線にとまっていたカラスが、体調を崩し落下して息を引き取りました。病死のようです。それを知ったカラスが数羽電線上でしばらく鳴いていました。専門家によれば、「飛び立っておいで」と呼びかけるそうです。死骸は、貝沼自治会長から役所に連絡していただき、処理していただきました。

来年の夏の気象については予測できませんが、傾向的には、気温の上昇が危惧され、地域としても大きな課題を突き付けられているようです。



電線と死んだカラス（7 月 12 日）

編集後記

今年の夏は記録的な猛暑で、蝉や蚊も少なく、いつもと違った夏でした。地域イベントも参加されるみなさんの安全に配慮した見直しをしたうえで、みなさんで楽しいものにしていきたいですね。

次号は 1 月 15 日発行予定です。

【編集委員】長谷川幹夫、鈴木英範、森田伸一、飯塚智明